

ても駄目です。所謂市場關係者等は飽迄反對するかも知れぬ。又消費者や生産者は、聊か弱味のある者であるから、どうしても團結して輿論を惹起して迫る必要がある。殊に産業組合や農會は進んで之に努

力しなければならぬと思ふ。要するに今日の市場組織は改善すべき點が極めて多いのであるから、諸君が團結して之が改善を圖らなければならぬといふ事を申上げて置きます。(大正八年七月)

最近の食糧問題

法學博士 矢 作 榮 藏

食糧不足の原因

最近食糧問題は世界到る所で喧しく論議されて居りますが、之は全く歐洲大戰の影響に外ならぬのであります。元來食糧品は端境期に於て相當の餘裕がなければならぬものである。之は其配給の爲めに相當の手數と時間を要する爲めであります。日本に於ては端境期には少も一箇月分の餘裕を必要とされて居る、それだけの餘裕かなければ日本全體としては絶對的に不足はなくても事實上缺乏を來す場所が出來て來るのであります。所が歐羅巴殊に西歐羅巴諸國

では其位の餘裕では足りない、それは南米とか濠洲とか印度等から輸入する食糧が多いので、其配給に長い時間を要するからであります。從來は戦争はいつても一局部に限られて居つたから、戦争の爲めに食糧不足を感ずる事は少かつたのであるが、今回の大戦争は殆ど世界全體に亘つたかつても可い位の大戦争で、直接間接に戦争の爲めに働いた者は實に夥しい數に上つて居る、随つて國內の生産額は非常に減つて、一方消費は非常に増して來た。又西歐羅巴諸國は戦前既に食糧が不足して居つたのに戦争の爲めに農産物が急激に減つた。元來食糧は極めて輸出

入の少いもので、大抵生産した國で消費して仕舞ふものである。私共も數字を見て今更の如く驚いたやうな次第である。實例を擧げて見ると、英國や白耳義は食糧を殆ど他國から買つて居る國のやうに見ねるけれども最近の調べに依ると、英國でさへ自國の消費高の五割三分、約半分は國內で生産してゐる。白耳義は五割七分、又獨逸は八割八分、佛蘭西は九割八分、澳太利は九割八分の數字になつて居る。北米合衆國は輸出入無し。露西亞は生産高は消費高の十一割、即ち一割だけ餘る。加奈陀は十二割三分、二割三分だけ餘る。アルゼンチンは四割分餘る。之は金額で示したものであるから、數量で示せば幾らか割合が違ふかも知れぬが、大體は矢張りさうなると思ふ。斯の如く西歐羅巴諸國は人口が多く食物を多く消費する所であると同時に一方主なる生産地である。其生産地が戰爭の爲めに減じた。それから四箇年に亙る戰爭中各食糧の生産地に凶作があつた。千九百十六年アルゼンチンの凶作は甚しいもので大に輸出すべきものが少しも出来なかつた、濠洲も殆ど輸出が出来なかつた、又西歐羅巴へ穀物を輸出する主なる生産地であつた露西亞はボスポラス海峡

を閉鎖された爲めに輸出が出来なかつた。さういふ種々の原因の爲めに、西歐羅巴諸國は非常に食糧の缺乏を來すに到つたのであります。

又西歐羅巴諸國の主なる食糧品たる小麦の、世界の市場に於て賣買される額は、世界に於ける小麦の生産額の約二割位で、其他は各生産地に於て消費されるのである。それが米に到つては一層少い、世界の市場で商品として販賣される米の數量は、總産額の五分位に過ぎない。故に世界の或る部分に於て生産が減じて消費が増加するといふ事があれば、直に各地方に於て食糧の不足を來すは己を得ないのであります。

戰爭の爲めに消費が増すといふのは、戰爭は激動だからである。人間は安靜にして居れば、一千七百カロリーので足りるが、激動すると十八貫目位の人間ならばどうしても三千カロリーから、五千カロリーは要するさうですから、戰爭になると穀物の消費高は非常に増加する。所が生産高は減る。其上獨逸の潛航艇で食糧品は海の中へ埋められたので、其爲めにも餘程食糧は減つて居る譯である。

又船が大分沈められた爲めに運輸が不完全になつて

配給が圓滑でなくなつた事も食糧不足の原因となつたのであります。斯の如く不足に不足を重ねた爲めに、舊穀から新穀に移る時に必要な穀物も總て消費し盡くされたので、一層不足を感ずるやうになつたのであります。

食糧増収策

然らば我國はどうかといふと、我國は從來殆ど自給自足主義で、輸入は餘りなかつた所が、歐羅巴諸國が食糧不足の爲めに、輸入さるべき米其他の物が殆どなくなつた。又普通なら買込む筈の雜穀を北海道等から大分輸出した。即ち輸入が減つて輸出が増加した。加ふるに大正六年七年は餘り豊作ではなかつた。随つて出廻期の豫備米が大分減つたので、何時も不足を感じて居る。實際は不足でなくとも豫備米がないから不足を感ずるやうに思へるのである。故に之は何とかして、豫備の食糧を貯へなければならぬ。それで私は大きな事は後廻しとして可いが、差當り豫備米を早く貯へる事が必要である。それには開墾助成法も間に合ぬ。朝鮮の水利の改善でも間に合ぬ。又外國米の輸入でも間に合ぬ。どうしても反當りの收穫を殖やして、收穫を急に増す外仕方がない。

い。私は此點に就ては、どうしても諸君に訴へるより外ない事と思ひますので、聊か自分の思ふ所を述べて見やうと思ひます。

試みに米の反當りの收穫に就て、世界各國の比較を取つて見ると、日本人は日本は世界一と思つて居るか知れませぬが、實は世界で四番目といふ事になつて居ります。世界で反當りの收穫の一番多いのは西班牙で、一ヘクターに付て四十六斤、次は埃及で四十斤、三番目は伊太利で三十五斤、日本は其次で三十二斤といふ事になつて居る。之を石數に換算すると西班牙が一反當り二石四斗四升三合二勺であるが日本は僅に一石七斗九升二合六勺の平均である。

西班牙の米産地は地中海の沿岸バレジャ地方、埃及はナイル河の沿岸、又伊太利はポー河の沿岸ですが、何れもやり方は大ザツパで、農家は一軒で五町歩から五十町歩位を耕して居る。さうして大抵は輪作でやつて居る。又大麥の方はどうかといふと更に少い。大麥は白耳義が第一で一反當り二石四斗四升二合、日本は八番目で一石四斗三升七合となつて居る。小麥は丁抹が世界一で反當り二石二斗四升七合七勺、日本は九斗九升九合で第十一番になつて居

る。燕麥は白耳義が三石二斗三升九合四勺、日本は第六番目で二石一斗二升三合、玉蜀黍は加奈陀が一番で反當り二石三斗八升三勺、日本は一斗三合四勺で七番目、馬鈴薯は白耳義が第一等で反當り二萬九千七百九十三バウンドで日本は一萬六千六百バウンドで十三番目になつて居る。而し米に就て謂ふならば日本は他の國では牧草地に使ふやうな所迄本田にして居るから反當りの收穫としてはないのであるが、西班牙や伊太利のやうに米に適して居る所だけ作れば、反當りの收穫はモット多くなるといふ辯解をする人がある。成程さうも謂へるだらうが然し日本ではまだ大分螟蟲に食はせて居る。九州等では大分螟蟲に御馳走をして居るといふ事であるから螟蟲を叮嚀に取るやうにすれば、それだけでも一割位の收穫は増す事が出來さうである。すると又餘り手數を掛けると算盤勘定が合はなくなるといふ者があります。然し私としては假令少し位は算盤勘定が合はなくても今日の場合是非やつて貰ひたいと思ふ。何故かといふと、米不足の不安といふ事は甚だ殘念な事で其爲めに常に人心が不安になり、場合に依つては治安の維持にも害があるといふ状態を永く續ける

事は甚だ困る。故に苟くも農業に従事する人は日本國民全體の安寧幸福を圖るといふ事の爲めに、特別の場合として少しは損をしても、此不安を除き去る爲めに盡力して貰ひたいのであります。さういふ考へを以て、螟蟲驅除に盡力されるならば必ず反當りの收穫を増す事が出來ると思ふ。又肥料や調製の點に於て十分でない所があると思ひます。關東や東北は特にさうである。其爲めに餘程收穫を減じて居るから、それらの點を改良すれば尙餘程收穫を増す事が出來ると思ふ。次に大麥や小麥は日本では入梅の爲めにどうも收穫が不確實であるといふ事を聞きます。又日本では麥類は裏作として作るから、歐羅巴等の如き一毛作と比較すれば、收穫が少いといふ議論もあるやうです。然し今少し手數を掛けて肥料を澤山やつて、權田式のやうなものを使へば反當りの收穫はまだ餘程増す事が出來る。二毛作であるとか入梅があるからといふ事は收穫の少い辯解にはなるとまいと思ふ。私の素人考へを言へば入梅と謂つても大抵收納の時に降るのだから、之は人工乾燥でもすれば可い。さうすれば雨は續いても構はぬと思ふ。次に品種の改良に依つても反當りの收穫を増す事が

出来ると思ひます。燕麥は近頃來たのであるし玉蜀黍は餘り重きを置く作物ではないとしても、馬鈴薯の十三番目は甚だ残念である。

根 菜 栽 培

馬鈴薯は、東京の西から南へ掛けては作る事が難しい裏作として作る事が出来ない。モウ少し寒い所で造るのが適當であると思ふ。馬鈴薯は餘り肥料も要らぬし、又雨が多くても少くても餘り影響を受けないから、非常に便利な作物である。之は東京以北では極めて適當して居るから、大に研究する價值がある。一體に日本では他の穀物に較べて根菜の栽培が進まないが、之から後に開墾して行かうといふ地面は第三紀層第四紀層が多く、水田として不適當であるから、さういふ所は根菜を栽培するのが可いと思ふ。馬鈴薯等は手数が要らず、反當りの收穫が多いのであるから、將來は確に問題とするに足りると思ひます。

又耕作にも高い手間賃で尊い勢力を使つてやる事は餘程注意を要すると思ふ。矢張り牛や馬を適當に使用する方が利益のやうに思はれます。人間の生活は

ドン／＼向上するから、手間賃もドン／＼騰るけれども、牛や馬の方はそれほど向上しないから、之れからは人間の力ばかりで耕作せずに、適當に牛や馬を役とする事が必要であり、確に利益のある事と思ひます。

モウ一つの問題は耕土を成可く深くしなければならぬと云つても、なか／＼深くするものでない。所が裏作に根菜を作る事にすればどうしても深く耕さなければ出来が悪い。故に根菜の栽培を奨励すれば己むを得ず深く耕す事になるから、自然に耕土が深くなる事と思ひます。尙近頃唱へられるやうになつた事であるが根菜類を作ると一種の微菌の作用で自然に無代價で窒素を得られるといふ利益もあります。何れにしても、反當りの收穫を今少し増す事に力を盡して貰ひたいと思ひます。最近十年間日本に於ける各種の作物の反當りの收穫は、著しく増加して居つて、此點は農業技術員諸君の盡力に敬服する次第ですが、近頃は人間が贅澤になつてなか／＼根菜類では満足しない、どうしても白米でなければ満足しないやうになつたので、餘計に米が不足するやうになつたのであります。それで遠い將來の事は兎に角

當面の應急策として、食糧不足の不安を除き去る爲めには反當りの收穫を増す事が最も急務と思ひます之は永くやつて貰はなくとも可い。此所一、二年の間だけでもやつて貰へば非常に効果のある事と思ひますから、農業者諸君は一つ奮發は今年に在りといふ覺悟を以て努力して頂きたいのであります。

尙小學校へ通つて居る生徒にも、朝の涼しい中に少し宛働かせるとか、女にも相當の働きをさせるといふ事も必要であると思ふ。又水を汲むとか灌漑するとか、或は米や麥を搗くとかいふ事にう少し動力を利用するやうにすれば勞力も餘程節約が出来る。麥や米を搗くのに、汗を流して杵を握つて搗くといふのは感心した話でない。さういふ事には勞力を節約して本田の方へ向ける事にすれば、手入が不十分になる事はなくなつて、自然に反當りの收穫も増す事が出来ると思ふ。斯の如くして反當りの收穫を増す事に力を盡すならば食糧の不足を補ふ事が出来、随つて豫備米も出来るし、食糧不足に關する不安は除かれる事と思ふ。

尙今一つの問題は、今年は外國米輸入の見込がないといふ事です、然し朝鮮ならば滿洲から高粱を澤

山移入して代用すれば米を内地へ送る事が出来る。又臺灣ならば濠洲あたりから、小麥を買つて代用れば米を輸出する事が出来るから、端坼期に絶対に不足する事はないと思ふ。

新穀出廻の促進

又朝鮮は勿論、内地でも八月になれば拔穂をすれば相當に米を出す事が出来る、自然に任せて置けば十月頃迄は出廻りが極く少く、消費量の三分の一位しか出ないのであるが、十月迄の間には消費するだけの分量は少し努力すれば出来ると思ふ。

普通の年は十一月頃から、新米を食ひ始めるといふ事になつて居るが今年はそれ迄が心配だ、先づ十月が最も心配だと思ひます。故に關西地方は晩稻が多いのであるから今年は特に手廻しをよくして早く收穫するやうに願ひたい、出来るならば十月には必ず新穀が取れるやうにすれば、相場の上からいつても高く賣れるし、又端坼期の不安を餘程緩和する事が出来ると思ひます。東北地方は割合出廻りが早く、人工乾燥でも施せば十月には市場へ出せる所が多いのですが、どうも東北地方の人はさういふ事が出来

ない。それで新穀の出廻りを早くしやうといふには矢張り關東か、關西の人に頼まなければ難しいのであります。勿論品種の關係上關西地方には多きを望む事は出来ませぬが、或る程度迄は今日から注意すれば必ず出来ると思ひます。私の想像では十一月なれば米は少し下ると思ふ、先づ十月までは高いが十一月になれば少し下るといふ見込を立てゝ居る。それは種々の理由があるが、重なる理由は外國が思つただけの數量を輸入する事が出来ないといふことである。之は印度大半島が凶作であつたといふ事が重なる原因である。緬甸などは米の輸出を禁止したのは二十年來始めてだといふ。即ち昨年は二十年來の飢饉だといふ事です。故に來年も外米が買へぬと思ふのは宜しくない。先づ來年は従前の如く輸入する事が出来ると觀た方が確だと思ふ。随つて來年は値段も安く、數量も十分買入れる事が出来ると觀なければならぬ。

小麥の方も世界的に大分不足を告げて居つたが、西歐羅巴、米國等に於ける荒廢地の恢復作付反別等に依り餘程緩和されたやうですが同盟側、獨逸、奧太利等はまだ食糧不足で騒いで居るやうです。然し之

も本年の收穫があれば、大分緩和されて來ると思ひます。さうすれば世界の食料不足問題は本年十月限りで、それから後も絶対に食糧問題が無くなるわけではないが餘程緩和される事と思ふ。

日本でも、今年の作柄は今の所では悪くはないやうだし、印度や佛領印度も特別に凶作でなければ十分輸入も出来ませうし心配する事は無いと思ふ。農商務省の調べでは、日本の米の產額は五千五百萬石といふ事になつて居るが、之は幾らか内輪になつて居るから實際は六千萬石位の收穫があると觀て差支無いと思ふ。故にアト三百萬石位の增收があれば問題は直に解決出来ると思ふ。反當りの收穫を増す事に依つてさういふ結果になるかどうかは分りませぬが何か多收穫の方法を講ずると、收穫の増加する所を觀ればまだ收穫を増加し得る餘地があると考へられる。兎に角本年の端坼期を過すのに一番良い方法は新穀出廻の促進といふ事に在ると思ふ。廻米問屋の中には米を十萬石も持つて居る者があるといふことです、之れを値段の最も高い絶頂で賣らうとするにはなか／＼骨が折れる。若し一度に賣出すといふと下るから、全體を絶頂の所で賣るといふ事は到底

出来ない、それだから廻米問屋は少しづつ上つて行くといふ場合でもダンノ、賣つて行くものです。所が農業者が勉強をして十月になれば新穀が出廻るぞといふ事を見せ附けるも米を澤山持つて居る者も十月前に賣つて仕舞はうとするから、勢ひで八九月頃の暴騰を免れる事が出来る事になります。要するに私は食糧問題に就ては、さういう考へを持つて居るものです。(大正八年七月)

